

「気象拡散の解析・モデリング」分科会・パネルディスカッション 「気象拡散研究の展開軸は？－大気環境対策への対応－」

世話人：若松伸司（国立環境研究所）、吉門 洋（資源環境技術総合研究所）

はじめに

「気象拡散の解析・モデリング」分科会が1999年度から新たに3年間の活動をする事になった。本分科会は、大気環境研究の主要な柱の一つである気象・拡散分野をめぐる新しい研究の展開、および大気環境改善のための対策・行政等へのそれら研究の活用について、情報交換・研究交流その他の連携の場をつくることを目的としている。

現実の大気環境は、すべて気象・拡散のプロセスを伴って自然や人間に影響を及ぼしており、その理解のために気象・拡散の視点による検討は欠かせない。これを裏返せば、気象・拡散分野の研究は他分野と有機的に結びついて発展するということであり、例えば汚染物質輸送のモデリングでは気流の計算のみならず物質の物理・化学特性をも詳細にモデル化する必要がある。また、モデルは常に検証を必要とするため、フィールドでの実態把握が不可欠であり、そのための測定技術が切り離せない。

本分科会はこれら諸分野の連携による大気環境の動態把握という観点から、多くの会員と、場合によっては会員外の参加者をも招き入れた交流の場としていきたい。

「気象拡散の解析・モデリング」分科会の活動

本分科会はこれまで3年間実施して来た「モデリング・動態解析」分科会の活動を基本的には引き継ぐものであるが、以下の様な意見を参考に新たな展開を模索している。

本分科会にかかわる社会背景として、(1) 従来の対象に加えてVOC成分やPM2.5等の動態解明とモデル構築に関する要請があること、(2) 環境アセスの仕組みの変化に伴い大気環境影響に利用可能なモデルの構築が必要になっていること、等が挙げられ、地域・広域モデルの新たな展開が必要となっている。また取り扱うテーマや活動スタイルとしては、(3) 研究のみならず行政・規制との関係を重視し、広い分野の人に参加してもらえよう、親しみやすいものにするよう努力したい。

モデルは単に試験的適用にとどまらず、どのような基準で検証を行い、どのような目的に利用できるか、の議論や指針作りが求められている。この様な背景をふまえ、これらのテーマにかかわる本分科会関係研究分野の役割に重点を置き、会員の声も反映しながら、各年度の秋の年会に同期した交流集会、春の交流集会を開く事を計画している。なお、これらの交流集会での議論を核として共通のフィールドでの同時観測やモデルの相互比較等の協力が具体化していくことが出来ればと考えている。

以上の様な活動を企画・実施する為には、単発的な研究交流のみならず経常的な日常活動が必要となり、そのための資金や組織についても考えて行かなければならない。また、得られた成果を社会に反映させて行く為の仕組みに関する検討も必要である。

パネルディスカッションの趣旨

本年は初年度であるため本分科会の今後の具体的な活動内容を協議する事を目的としてパネルディスカッション「気象拡散研究の展開軸は？－大気環境対策への対応－」を行う。

1. 国環研をとりまく最近のテーマとその展開について（若松伸司・国立環境研究所）
 2. 大気拡散モデルの利用の現状と問題点、今後の方向（河野 仁・姫路工業大学）
 3. ヨーロッパにおける最近の動向視察の印象について（北田敏廣・豊橋技術科学大学）
- の話題提供を素材に出来るだけ広い分野にわたっての自由なディスカッションを期待したい。